

1 理念・目的

1. 1 大学の理念・目的

[現状の説明]

(1) 大学の理念・目的の適切性

(大学の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点—「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

本学の教育・研究のよりどころとする理念は、学校法人加計学園全体の「建学の理念」ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を養成する

である。これに基づき、「理工学に関する学術の理論および応用を深く研究教授し、人格を陶冶する」ことを本学の目的としている。

これらの実現のために、理学、工学、総合情報の3つの専門領域で構成される学部と研究科を設置し、日々、教育・研究を行っている。その成果は、科研費研究や省庁選定事業に代表される各種助成金事業の採択状況や卒業生の就職状況、総合機器センターをはじめとする研究施設・設備や図書館・情報処理センターなどの教育施設の充実など、実績・資源の両面からみて、本学の理念・目的に沿った整備や取り組みが行われている。このように、理工系の大学として適切な理念・目的設定がなされていると判断される。

なお、個性化への対応については、建学の理念に「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し」とあるように、全学的に常に個性を意識して教育・研究にあたっている。

(2) 大学の理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(大学の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点—「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

「建学の理念」は学内各所掲示し、常に大学構成員の目に触れるようにしている。大学の目的は「学則」に明記し、「建学の理念」とともに、「学生便覧」やホームページ（「大学の概要」や「情報公開」のページ）に掲載し、周知を図っている。他にも、毎年度の「大学案内」や「大学院案内」、学内広報誌の「理大通信」などの配布物に常にわかりやすい形で掲載し、ホームページとともに企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く周知するようにしている。新入生には入学時に配布する2つの冊子「教育の目標と方針—岡山理科大学で学ぶこと—」と「Campus Life」やオリエンテーションを通じて周知を図っている。

なお、上記のとおり、周知、公表の手段については適切に行っていると判断するが、その徹底に関しては、より努力が必要と考えられる。

(3) 大学の理念・目的の適切性についての定期的な検証

(大学の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点—なし

教育・研究水準の向上を図り、理念・目的を達成するために、教育・研究活動などを自ら点検・評価・公表することを学則に明記し、われわれの意識するところとし、その具体的な方策として、大学評価委員会を設置して、毎年度、定期的な検証を行っている。

1. 2 学部の理念・目的

1. 2. 1 理学部の理念・目的

[現状の説明]

(1) 理学部の理念・目的の適切性

(学部の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点－「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

理学部は、建学の理念と大学の目的のもと、人間・社会・地球環境を念頭に置いた幅広い一般教養・社会常識を背景に、真理に対する深い感動と畏敬をもって自然科学の基礎知識を習得し、社会で実践する能力を有する人材の育成を目的としている。

これらの実現のために、「理学」の教育・研究にあたる組織として、開学以来の応用数学科と化学科の2学科のほか、応用物理学科、基礎理学科、生物化学科、臨床生命科学科、動物学科の合計7学科を設置し、教育環境を整えている。また、教職員にあっては教育・研究環境の整備と提供に心がけ、当該分野の研究成果や学生の大学院進学にも実績をあげている。特に、理学部が中心となって助成を受けた私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の「グリーン元素科学」やハイテク・リサーチ・センター整備事業などにより研究・教育体制が整っており、理学部の理念・目的が適切に機能していると判断される。

個性化への対応については、建学の理念を常に意識し、全学的に設置されているチューター制、一部の学科で採用されているサブチューター制を利用して、学生の興味や進路に対する広いニーズに応えるべく努力をしている。

(2) 理学部の理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(学部の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点－「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

学部の理念・目的は、ホームページや学生便覧等の配布物に明記され、教職員および学生に周知されている。特に新入生に対しては、「教育の目標と方針－岡山理科大学で学ぶこと－」などの冊子を配布し、理念・目的の周知に努めている。また、大学のホームページ(「大学の概要」、「情報公開」、「学部紹介」のページ)や大学案内などの各種配布物を通して企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く公表している。

(3) 理学部の理念・目的の適切性についての定期的な検証

(学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点－なし

理念・目的の適切性に関しては、大学評価委員会などにより、毎年自己評価を行うことにしており、定期的に検証する制度が確立している。

1. 2. 2 工学部の理念・目的

〔現状の説明〕

(1) 工学部の理念・目的の適切性

(学部の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点－「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

工学部では、建学の理念と大学の目的のもと、講義・実験・実習等を通して、ものづくりの理論と技術を身につけるとともに、卒業研究等を通して先端技術・研究を体感し、地球的視野から多面的に物事を理解し判断し得る能力と倫理観を備えた技術者の育成を目的としている。

これらの実現のために、「工学」の教育・研究にあたる組織として、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科の6学科と、学科を横断する工学プロジェクトコースを設け、各専門領域で講義・実験・実習等を通して、工学の理論と技術を身につけるとともに、卒業研究等を通して先端技術や研究を体感させている。最初の学科が約40年前に(当時の理学部に)設置されて以来、相当規模の学内予算、補助金、外部資金を投じて教育・研究施設・設備の充実を図るとともに、優秀な教職員を採用してきている。このために、現在では満足できる教育・研究環境が提供できているといえる。さらに、これまで多数の学部卒業生を輩出してきており、企業、大学などの教育機関、研究機関などで活躍している。また、多くの教員は国内外で高く評価される研究業績をあげ、産学官連携の研究も多く、その成果を教育に反映させている。以上より、工学部の理念・目的が適切に機能していると判断される。

個性化への対応については、建学の理念を常に意識し、全学的に設置されているチューター制、一部の学科で採用されているサブチューター制を利用して、学生グループや学生個人に対して綿密な指導を行っている。また、4年次の必修科目である卒業研究では、所属する研究室の教員が学生個人に対して、その能力と個性に応じて勉学、研究などを指導している。さらに、一部の学科では卒業研究を前倒しする形で、3年次から研究室に配属させたり、工学プロジェクトコースでは1年次から研究室に配属させて、学生個人をなお一層綿密に指導する体制を取ったりしている。

(2) 工学部の理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(学部の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点－「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

学部の理念・目的は、ホームページや学生便覧等の配布物に明記され、教職員および学生に周知されている。特に新生に対しては、「教育の目標と方針－岡山理科大学で学ぶこと－」などの冊子を配布し、オリエンテーションで説明するなどして、理念・目的の周知に努めている。また、大学のホームページ(「大学の概要」、「情報公開」、「学部紹介」のページ)や大学案内などの各種配布物を通して企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く公表している。

(3) 工学部の理念・目的の適切性についての定期的な検証

(学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点－なし

理念・目的の適切性に関しては、大学評価委員会などにより、毎年自己評価を行うことにしており、定期的に検証する制度が確立している。また、理念・目的の内容については、毎年学部長が原案を作成し、それを学科長に提示して意見を求め、適宜修正するなどして、その適切性の検証を行っている。

1. 2. 3 総合情報学部理念・目的

[現状の説明]

(1) 総合情報学部理念・目的の適切性

(学部の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点－「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

総合情報学部では、人間・社会と自然について情報科学を核として教育・研究を行うことによって、環境と調和しながら災害に対して安全な発展を目指す高度情報化社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としている。

これらの実現のために、「総合情報」の教育・研究にあたる組織として、情報科学科、コンピュータ・シミュレーション学科、生物地球システム学科、社会情報学科、建築学科の5学科を設置し、教育・研究にあたってきた。これに対して、急速に進展する社会により迅速に対応するため、平成23年度に、コンピュータ・シミュレーション学科を廃止し、建築学科を工学部へ移設し、3学科体制で臨むこととした。このことにより、「情報」をより強調した学部教育・研究を展開することで、高度情報化への対応、地域社会を念頭においた研究、学際領域への積極的なアプローチなど、社会的関心の動向を積極的にとらえられる環境を整えることで、総合情報学部理念・目的をより明確に実現しようとしている。

個性化への対応については、建学の理念を常に意識し、全学的に設置されているチューター制、一部の学科で採用されているサブチューター制を利用して、学生の興味や進路にきめ細やかに対応している。

(2) 総合情報学部理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(学部の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点－「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

学部の理念・目的は、ホームページや学生便覧等の配布物に明記され、教職員および学生に周知されている。特に新入生に対しては、「教育の目標と方針－岡山理科大学で学ぶこと－」などの冊子を配布し、理念・目的の周知に努めている。また、大学のホームページ(「大学の概要」、「情報公開」、「学部紹介」のページ)や大学案内などの各種配布物を通して企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く公表されている。

(3) 総合情報学部理念・目的の適切性についての定期的な検証

(学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点－なし

理念・目的の適切性に関しては、大学評価委員会などにより、毎年自己評価を行うことにしており、定期的に検証する制度が確立している。

1. 3 大学院研究科の理念・目的

1. 3. 1 大学院理学研究科の理念・目的

[現状の説明]

(1) 理学研究科の理念・目的の適切性

(研究科の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点－「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

理学研究科は、建学の理念と大学の目的のもと、修士課程では、自然科学の基礎体系を理解し、専門分野で創造的に実践する能力を有する人材の育成を目的とし、学部における教育成果を更に深化することを目的としている。また、博士課程は、修士課程で培った専門知識と基本的な研究テクニックを駆使して、専攻分野について、研究者として自立した研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養い、専門分野で創造的に実践することを目的としている。

これらの実現のために、修士課程では、応用数学専攻、化学専攻、応用物理学専攻、総合理学専攻、生物化学専攻、臨床生命科学専攻の合計6専攻を、博士課程では、応用数学専攻と材質理学専攻を設置している。これらの組織で、教職員にあっては教育・研究環境の整備に専念し、優れた教育・研究環境を不断に大学院生に提供できるように努力し、さらに学際領域の最近の研究成果等について、それらを積極的に取り入れるべく、研究・教育に取り組んでいる。多くの助成研究や選定事業に積極的ににかかわり、研究施設・設備をより活用した研究が行われており、理学研究科の理念・目的が適切に機能していると判断される。

上記を通して、学生の広いニーズに応え、彼らの斬新な発想を活かしつつ、近年の自然科学の研究発展に貢献すべく、さまざまな研究に積極的にかかわらせるなかで、個性・個人への対応を図っている。

(2) 理学研究科の理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点－「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

研究科の理念・目的は、ホームページ(「大学の概要」、「情報公開」、「大学院」のページ)や大学院要覧等の配布物に明記し、教職員および学生に周知している。また、大学のホームページや大学案内などの各種配布物を通して企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く公表している。

――→ 研究科独自の取組があれば追加記入願います。 ←――

(3) 理学研究科の理念・目的の適切性についての定期的な検証

(研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点－なし

理念・目的の適切性に関しては、大学評価委員会などにより、毎年自己評価を行うことにしており、定期的に検証する制度が確立している。

1. 3. 2 大学院工学研究科の理念・目的

[現状の説明]

(1) 工学研究科の理念・目的の適切性

(研究科の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点－「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

工学研究科は、建学の理念と大学の目的のもと、修士課程では、自然や社会の調和に配慮した科学技術の創造や展開を図れる研究者・技術者の育成を目的とし、講義を通して広く深い専門領域を学修するとともに、先端の研究活動を通して高度な専門性と実践力を身につけることを目的としている。また、博士課程は、研究者として自立した研究活動を行い、創造性豊かで急進展する技術革新にも追従でき、将来の科学技術の発展に真に貢献できる研究者と、高い倫理感と社会規範を身につけた工学分野で指導的な立場に立てる高度専門技術者の育成を目的としている。

これらの実現のために、修士課程では、学部の学科に対応して応用化学専攻、機械システム工学専攻、電子工学専攻、情報工学専攻、知能機械工学専攻の5専攻を、博士課程にはシステム科学専攻を設置している。最初の専攻が約20年前に開設されて以来、相当規模の学内予算、補助金、外部資金を投じて教育・研究設備の充実を図るとともに、優秀な教職員を採用してきた。このために、現在ではほぼ満足できる教育・研究環境にあるものと判断される。これまでも多数の大学院修了生を輩出してきており、企業、大学などの教育機関、研究機関などで活躍している。また、多くの教員は国内外で高く評価される研究業績をあげ、産学官連携の研究も多く、その成果を教育・研究に反映している。以上より、工学研究科の理念・目的が適切に機能していると判断される。

個性化への対応については、学内の学部で卒業研究の指導を担当した教員が引き続いて個々の学生を指導する体制を整え、学部で培った教育・研究活動をスムーズに継続できるように配慮している。また、他大学などからの学生に対しても、同様に学生個人の勉学と研究を綿密に指導するようにしている。このことにより、しっかりした基礎理論をもち、企業や教育・研究機関などで活躍できる応用能力に優れる工学技術者、研究者を育成している。

(2) 工学研究科の理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点－「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

研究科の理念・目的は、ホームページ(「大学の概要」、「情報公開」、「大学院」のページ)や大学院要覧等の配布物に明記し、教職員および学生に周知している。また、大学のホームページや大学案内などの各種配布物を通して企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く公表している。

――→ 研究科独自の取組があれば追加記入願います。 ←――

(3) 工学研究科の理念・目的の適切性についての定期的な検証

(研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点－なし

理念・目的の適切性に関しては、大学評価委員会などにより、毎年自己評価を行うことにしており、定期的に検証する制度が確立している。また、理念・目的の内容については、毎年研究科長が原案を作成し、それを所属する専攻長に提示して意見を求め、適宜修正するなどして、その適切性の検証を行っている。

1. 3. 3 大学院総合情報研究科の理念・目的

[現状の説明]

(1) 総合情報研究科の理念・目的の適切性

(研究科の理念・目的は、適切に設定されているか。)

※ 評価の視点－「理念・目的の明確化」、「実績や資源からみた理念・目的の適切性」、「個性化への対応」

総合情報研究科は、建学の理念と大学、大学院の目的のもと、修士課程では、人間・社会と自然について情報科学を核として高度な専門性を有する教育研究を行うことにより、環境と調和しながら災害に対して安全な持続的発展を目指す高度情報化社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としている。また、博士課程は、さまざまな分野で、高度な専門性を生かして中心的な役割を遂行できる人材の育成と、自立した研究者として研究を進める能力を養うことを目的としている。

これらの実現のために、修士課程では、情報科学専攻、シミュレーション科学専攻、生物地球システム専攻、社会情報専攻の4専攻を、博士課程には数理・環境システム専攻を設置している。これらの組織に置いて、「情報」をキーとした学際領域の研究を推進するとともに、情報関係の実習室を独自に用意するなど、教育・研究環境の整備に努めている。また、フィールドワークや地域との連携を主とした研究や受託事業も普段の教育・研究に活かされ、修了生の進路決定に結びついている。以上より、総合情報研究科の理念・目的に基づいた教育・研究が展開されていると判断される。

個性化への対応については、本学の学部出身者が多いことから、卒業研究担当教員が引き続き研究を指導することで、継続的かつ個人に応じた指導体制をとる中で、急速な情報環境に対応できる人材育成を行っている。

(2) 総合情報研究科の理念・目的の大学構成員への周知及び社会への公表

(研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。)

※ 評価の視点－「構成員に対する周知方法と有効性」、「社会への公表方法」

研究科の理念・目的は、ホームページ(「大学の概要」、「情報公開」、「大学院」のページ)や大学院要覧等の配布物に明記し、教職員および学生に周知している。また、大学のホームページや大学案内、研究教育概要などの各種配布物を通して企業・学校関係者・保護者・受験生など、社会全般に広く公表している。

――→ 研究科独自の取組があれば追加記入願います。 ←――

(3) 総合情報研究科の理念・目的の適切性についての定期的な検証

(研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。)

※ 評価の視点－なし

理念・目的の適切性に関しては、大学評価委員会などにより、毎年自己評価を行うことにしており、定期的に検証する制度が確立している。